関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

January. 2025

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY PUBLIC RELATIONS

関西医科大学 広報

光を仰ぎ 新年にのぞむ

竣工から間もなく3年の関医タワー

Vol.68

CONTENTS

法人：理事長年頭所感	P.1
大学：医工学センター開設	P.8
大学：サン・カミッロ病院およびヴェネツィア大学の代表団訪問	P.15
大学：学術祭・ひらかた市民大学	P.19
病院：連携病院の会	P.21
病院：災害訓練、DMAT訓練等	P.22

慈仁心鏡

建学の精神
本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

理事長年頭所感・学長、部署長挨拶

1月6日（月）16時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」についての本学の現状を説明。また令和10年に迎える創立100周年を見据え今後の計画や方針・目標を語りました。

また、理事長の年頭所感表明に続いて、枚方キャンパスでは副理事長、学長、附属病院長から、リハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、くずは病院においては、それぞれ学部長、病院長から挨拶がなされました。

挨拶する木梨学長

挨拶する澤田副理事長

挨拶する松田病院長

挨拶する飯田学部長

挨拶する杉浦病院長

挨拶する岡崎病院長

挨拶する高山病院長

大学・附属病院（枚方キャンパス）

枚方地区では年頭所感表明の後、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

木梨達雄学長の新年の挨拶では、教学面での課題に教職員一丸となって取り組みたいとの決意、そして国際化をさらに進展したいとの意欲が表明されました。

続いて澤田敏副理事長より新年の挨拶が行われた後、乾杯の挨拶を附属病院松田公志病院長が務め、診療強化への教職員一同の貢献を労いつつ、引き続き附属病院の機能強化に尽力していきたいと述べました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながら決意を新たにしていました。

リハビリテーション学部（牧野キャンパス）

牧野キャンパスでは、学生食堂に教職員らが集合し、リハビリテーション学部飯田寛和学部長による新年の挨拶に耳を傾けました。飯田学部長は「完成年度を迎えて卒業生を初めて輩出するので、今後よりいっそう、リハビリテーション学部が関西医科大学の一員として重責を担えるよう発展にご協力いただきたい」と語りかけました。

総合医療センター

総合医療センター南館2階臨床講堂に総合医療センターと天満橋総合クリニックの責任者らが集合し、総合医療センター杉浦哲朗病院長による挨拶に耳を傾けました。杉浦病院長は前年のスタッフの労をねぎらうとともに、目標達成に向けて各職種が専門性を活かして情報共有をしながら業務にあたっていただきたいと語りかけました。

香里病院

香里病院岡崎和一病院長から香里病院8階会議室に集まった教職員に向け年頭挨拶が行われ、地域包括医療病棟開設や初の災害訓練実施など香里病院の現状を踏まえて令和6年の実績を振り返りました。また、予防医療センターや糖尿病センターの新設、開院15年を迎えての設備更新など診療強化の目標を掲げ、「断らない病院」から「頼られる病院」を目指したいと今後の抱負を述べました。

くずは病院

くずは病院2階地域医療連携ラウンジにくずは病院各部署の責任者とくずは駅中健康・健診センター浦上昌也センター長らが参集し、くずは病院高山康夫病院長による挨拶が行われました。外来患者数の増加や、くずは病院の立ち位置として地域の健康寿命延伸を目指していることに触れ、地域の方々に健康寿命を延ばしてもっと元気に過ごしてもらえるよう頑張ってほしい。また、新しいことへの取り組みに前を向いて、何よりも健康に頑張ってほしいと、集まった職員に語りかけました。

医工学センター開設

令和6年10月1日付で医工学センターが開設されました。

医工学とトランスレーショナル・メディシンという、医学の2大領域を融合した研究センターです。このセンターでは分野横断的に学内外の研究者、欧米の有名大学や研究機関と国際的な共同研究を行い、広く産業界と連携して社会実装を進める拠点を目指します。

センターにはラマンイメージングや診断のための最先端の分光装置を備えており、機械学習や人工知能のアルゴリズムと組み合わせることで、すでに医学・医療で多くの貢献ができることが実証されつつあります。また、このセンターは、アルツハイマー病やパーキンソン病の早期診断や心身両面の健康障害に対するリハビリテーションに役立つ研究も行う予定です。

日本における医工連携(医療と工学の連携)は、近年ますます重要性を増してきています。それにはさまざまな要因がありますが、老齢人口の増加と労働人口の減少を背景として、医療・介護・リハビリテーションの高度化、効率的な医療提供の必要性が増大し、医療と工学の融合によって革新的なソリューションの開発が求められるようになりました。また、日本経済の停滞を背景に、大学・研究機関から生まれた新たな知識や技術を活用して、イノベーションによる新産業の創出や経済の活性化を求める機運が生じてきているのも一因です。

今後さらに、ロボティックスや新規医療素材の応用を含めた様々な領域で医工連携が広がるように橋渡しに尽力し、革新的で国際性の高い新たな研究ブランドの確立、知的財産を活用した企業連携によって社会実装を進めます。

医工連携に興味やシーズがある多くの先生方のご提案をお待ちしています。

就任のご挨拶『ラマン分光法による「分子のささやき」に耳を傾ける』

医工学センター　Giuseppe Pezzotti センター長・学長特命教授

私は、昭和59年にローマ大学工学部機械工学科を卒業した後、38年間、日本で研究をおこなってきました。近年、異なる研究分野を融合した学際研究が注目されていますが、私はこのブームにさきがけて、工学だけでなく、医学・理学・農学・薬学の各分野の研究に従事し、5つの博士学位を取得しながら、国際的学際研究の展開によるイノベーションとその社会実装に貢献してきました。この長年の経験と広範囲な知識を成長著しい関西医科大学の発展に是非生かしたいと思っています。

医工学センターについては、上記を参照していただき、ここでは、私自身が得意としている研究についてご紹介いたします。私の最近の研究分野は分子医学(Molecular Medicine)を基盤とし、医学、薬学、生物学だけでなく物理学や化学、バイオインフォマティクス等の幅広い学問分野の融合領域であり、分子構造や病態メカニズムの解明を目指しています。特に、私はラマン分光法という技術を用いて多くの成果を挙げてきましたが、残念ながら医療の領域ではラマンの活用はごくわずかにとどまっています。ラマン分光法を用いた分子医学は、患者さんに治療介入する前(同時)のコンパニオン診断において、強力な解析ツールとなり得るものです。ラマン分光法は前処理を行わずに非染色で分子を原子レベルで解析することが可能になります。多数の原子の摂動によって生じる「分子のささやき」ともいえるラマンスペクトルを取得、光に変換し、さらに、人工知能を導入することで、ラマンで得られたビッグデータの情報処理から、ニアリアルタイムで複数の分子種の化学構造やその位置情報を一度に取得することができます。これには、医療材料からエクソソーム、マトリックス、細胞、病理組織、細菌、真菌、ウイルスなどの生体試料、ウイルス・宿主の相互作用、変異獲得に至る経時的分析などが含まれます。さらに、農作物、肉、果物の迅速なラマンオミックス分析は、食品化学や栄養学へ応用することが期待されます。したがって、ラマンアプローチは、簡便かつ迅速で低コストでの個別化医療および医薬品開発に資するものとなり、ブレイクスルーを創出することが期待されています。

医工学センターでは、医学部だけでなくさまざまな分野の学生が分子医学を学び、大学院の学位(博士・修士)を取得することができますので、多様な人材の育成にも努めたいと思います。本センターは、高分解能分析と分子イメージングのための最先端のラマン分光装置を備えています。解析したい試料がありましたら、医工学センターにお越しください。一緒に「分子のささやき」を聴きながら、学際的かつ革新的な医療技術を一緒に開発しましょう。

略　歴

昭和59年	ローマ・サピエンツァ大学工学部機械工学科 優等卒業
昭和62年	大阪大学産業科学研究所 特別研究員
平成３年	大阪大学大学院工学研究科 工学博士学位取得
平成５年	東北大学金属材料研究所 客員研究員
平成５年	豊橋技術科学大学物質工学系 助手
平成８年	京都工芸繊維大学工芸学部物質工学科セラミックス工学 助教授
平成12年	京都工芸繊維大学工芸学部物質工学科セラミックス物理学(現、工芸科学部物質・材料科学域応用化学課程材料化学デザインコースセラミック物理学研究室) 教授
平成14年	日伊ナノサイエンス共同研究センター(日伊科学技術協定)センター長
平成24年	東京医科大学 医学博士学位取得
平成26年	京都大学 理学博士学位取得
平成29年	京都工芸繊維大学 副学長(国際担当)及び同学教育研究基盤機構国際センター長
令和２年	京都府立医科大学 医学博士学位取得
令和２年	ヴェネツィア・カフォスカリ大学 名誉フェロー
令和３年	ヴェネツィア・カフォスカリ大学 理事
令和３年	京都工芸繊維大学 副学長(連携研究ヘルスサイエンス担当)
令和４年	京都大学 農学博士学位取得
令和４年	トリノ工科大学ジャパンハブ 拠点長
令和５年	京都工芸繊維大学 理事・副学長(医工連携研究担当)
令和５年	関西医科大学 客員教授
令和６年	関西医科大学 学長特命教授・医工学センター センター長

就　任　挨　拶

附属病院国際がん新薬開発センター・新薬開発科 センター教授　清水　俊雄

令和6年11月1日付で関西医科大学附属病院国際がん新薬開発センター・新薬開発科センター教授を拝命いたしました。平成11年に近畿大学医学部を卒業後、全米でもトップクラスのがん新薬早期開発(Phase 1)専門施設であるSTART Phase 1 Centerにてクリニカルフェローとして専門的トレーニング経験を経て、帰国後は近畿大学腫瘍内科、国立がん研究センター中央病院先端医療科にて研鑽を積み、和歌山県立医科大学を経て本学に着任いたしました。新薬開発(国際共同ファーストインマン治験を中心に累計100試験以上の治験責任医師を担当)および複数のトランスレーショナルリサーチ研究に従事してまいりました。本邦におけるがん医療においては近年、新薬のドラッグロス・ドラッグラグ等の早急に解決すべき諸問題への対処が喫緊の課題となっていますが、海外グローバル製薬企業からの本学附属病院へのPhase 1 治験誘致・実施等に邁進しながら、世界に通用する次世代のがん新薬開発の国際的リーダー医師を本学から育成・輩出することを目標としております。

関西医科大学は令和10年には創立100周年を迎えますが、本学がアジアにおけるがん新薬開発の国際ハブ拠点「"Five-Stars" Oncology Early Phase 1 Center of Excellence」となることを目指して鋭意精進して参りますので、今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

略　歴

平成11年３月	近畿大学医学部医学科卒業
平成11年４月	近畿大学医学部附属病院 内科臨床研修医
平成12年６月	りんくう総合医療センター市立泉佐野病院 内科研修医
平成12年６月	国立がんセンター中央病院 内科レジデント(新薬治療開発)
平成17年４月	近畿大学医学部内科学講座 腫瘍内科 助教
平成22年１月	米国START (South Texas Accelerated Research Therapeutics) Phase 1 Center(San Antonio TX, USA) クリニカルフェロー
平成24年４月	近畿大学医学部内科学講座 腫瘍内科 講師
平成28年４月	国立がん研究センター中央病院 先端医療科医長・Phase 1 治験病棟医長 先端医療開発センター 新薬臨床開発分野併任 企画戦略局 国際戦略室 / 国際開発部門アジア連携推進室
令和４年４月	和歌山県立医科大学内科学第三講座(呼吸器内科・腫瘍内科) 准教授
令和４年11月	和歌山県立医科大学 病院教授
令和６年11月	関西医科大学附属病院 国際がん新薬開発センター・新薬開発科 センター教授

退　任　挨　拶

附属病院脳神経外科（脳血管内治療科担当）前理事長特命教授　天神　博志

令和4年4月1日から令和6年10月31日までの2年7か月の短い間でしたがお世話になりました。

久しぶりの大学勤めで、医学生や若い先生方と交流できて楽しかったです。

脳神経外科血管障害分野では血腫を除き70~80%は血管内治療で治るようになってきました。私は早い時期から血管内治療を手掛けていたので招聘いただいたのだと思います。しかし関西医科大学の脳血管障害チームは十分に血管内治療の技術があるため私が指導するべきことはそれほど多くはありませんでした。

できた仕事としては、血小板凝集能の測定システムの導入かと思います。これは血管内治療には不可欠です。費用の見積もり間違いがあったにも関わらずシステムの導入を決定していただいた松田病院長には大変感謝しています。坑血栓薬で最も重篤な合併症は脳出血です。従って坑血栓薬の投与に最も慎重なのは脳神経外科医です。今後地域の病院や開業医の方々にも坑血小板薬治療を開始、維持するにあたっては血小板凝集能のモニターをしていただくことが重要と考えています。

また北河内地区では高血圧治療に必須の家庭血圧の測定がまだ十分になされていないようです。これも開業医や患者さんの啓発が重要と考えます。

しばらく非常勤講師として学生指導やデータまとめを行わせていただきますので、大学や病院でお目にかかることがあるかもしれません。

最後に関西医科大学のますますの発展を祈念いたしてやみません。

令和7年度入職予定者（事務員）内定式

令和6年10月1日(火) 14時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、神崎秀陽常務理事が臨席して「令和7年度入職予定者内定式」が挙行されました。この日は令和7年度入職予定の事務員内定者9名が出席。神崎常務理事による挨拶の後、内定証書が内定者一人ひとりに手渡されました。その後、内定者は一人ずつ自己紹介と入職後の決意表明を行い、不安と期待の中、本学で働くことについて自身の思いを語りました。

内定証書を受け取る内定者

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学は昭和3年大阪女子高等医学専門学校の設立以来、日本をリードする医科大学を目指し着実に発展を続けてまいりました。現在、医学部・看護学部・リハビリテーション学部を擁する医療系複合大学として、次代へ向けてさまざまな事業が計画されております。学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様からの格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆募金室では、個人・法人からのご寄付と遺贈寄付をお受けしております。

個人・法人からのご寄付

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和7年3月末日まで

税制上の優遇措置	
個　人	所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます。
法　人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます。 ※制度についてご説明いたしますので、ご検討の際は募金室へご連絡ください。

なお、この募金の応募は任意です。

募金のお手続き

申込書提出
募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。
・申込書はホームページに掲載しております。
・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。

お振込み
募金専用口座へお振込みください。
・インターネットバンキングからお振込み
・振込用紙を使用し窓口にてお振込み
・ATMからお振込み　※上限額がございます。

確定申告
確定申告いただくと所得税が減税されます。
・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。
・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。

ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒（切手不要）、振込用紙をお送りいたします。

遺贈寄付

●遺言によるご寄付

遺言によって本学に寄付する制度です。
・ご遺言を確実に執行するために、信託銀行をご紹介いたします。

遺言によるご寄付の流れ

信託銀行へご相談
▼
遺言書の作成・保管
▼
遺言の執行
▼
本学へご寄付

【ご紹介先】
三井住友信託銀行
大阪本店法人業務部第三課
（06-6220-2515）

三菱ＵＦＪ信託銀行
梅田支店
（06-6313-2581）

信託銀行を利用して遺言信託をする場合、信託銀行へ手数料が発生します。

●相続財産によるご寄付

故人様のご遺志により相続人様が、相続財産から本学に寄付する制度です。
・本学にご寄付された金額を申告により相続税非課税にできます。
・現預金のみお受けしております。

相続財産によるご寄付の流れ

ご遺族様からご相談・お申し出
▼
ご遺族様よりご寄付の実施
▼
本学から文部科学省に「相続税非課税対象法人の証明書」を申請
▼
本学からご遺族様へ「相続税非課税対象法人の証明書」と受領書を送付

このあと、ご遺族様にてご逝去された日より10ヶ月以内に相続税の申告・納付をお願いいたします。

令和6年10月から令和6年12月までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

お問い合わせ先
法人事務局募金室
〒573-1010　大阪府枚方市新町二丁目5番1号
TEL：072-804-2146　FAX：072-804-2344　メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp
ホームページ：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します（記事掲載はオレンジ太字）

法人	**10月 1 日**	**事務職内定式**
	12月11日	北河内メディカルネットワーク医療安全共同研修
	1 月 6 日	**理事長年頭所感・学長、部署長挨拶**
大学	4月16日～1月28日	「白衣の日」
	10月 4 日	**令和6年度第1回大学院企画セミナー**
	10月8～10日	**サン・カミッロIRCCS病院およびヴェネツィア・カフォスカリ大学の代表団が本学訪問**
	10月10日	**令和6年度第2回大学院企画セミナー**
	10月11日	**国際大学院入学式**
	10月19日	**医学部・看護学部避難訓練等**
	10月20日	**慈仁会懇談会**
	10月23日	**白菊会総会**
	10月26、27日	**学園祭**
	10月29日	**実験動物慰霊祭**
	10月31日	地元創成看護論実習I実習報告会
	11月 2 日	**第2回看護学部ホームカミングデー**
	11月 2 日	**看護学部保護者懇談会**
	11月 6日	**解剖体慰霊碑供養**
	11月 7 日	**女性医師奨励賞受賞者講義**
	11月 7 日	**在大阪インドネシア総領事来学**
	11月13日	**リハビリテーション学部防災・消防訓練**
	11月16日	**リハビリテーション学部保護者懇談会**
	11月27日	**日伊国際シンポジウム**
	11月27日	**医療ニーズ発表会**
	12月 7 日	**子ども大学探検隊**
	12月7、8日	**第8回学術祭・ひらかた市民大学**
	12月9～26日	**看護学部生冬期インターンシップ**
	12月10日	日伊再生医療シンポジウム
	12月21日	看護学部第2回進路ガイダンス
	12月21日	**リハビリテーション学部病院見学会**
	12月25日	**白衣授与式**
	12月25日	**常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業**
病院	**11月 2 日**	**連携病院の会**
	12月17～3月31日	**医療安全大会**
附属病院	10月 2 日	美ら海水族館遠隔授業
	10月19日	**災害訓練**
	10月28日	がん教育講演会
	10月30日	医療安全相互ラウンド
	10月30日	クリニクラウン病院訪問
	11月 8 日	**DMAT訓練**
	11月24～30日	医療安全推進週間
	12月 4 日	消防訓練
	12月18日	こども病棟クリスマス会
総合医療センター	**10月 5 日**	**市民健康講座**
	10月17日	**防犯訓練**
	11月8、9日	**災害訓練・DMAT訓練**
	11月16日	**糖尿病デーフェスタ**
	12月 7 日	**クリスマスコンサート**
香里病院	**10月 5 日**	**市民公開講座**
	10月20日	**日曜乳がん検診**
	11月30日	**消防・災害合同訓練**
卒後臨床研修センター	11月8、9日	臨床研修指導医養成講習会
看護キャリア開発センター	**10月 2 日**	**第8回リカレントスクール入校式**
	12月 4 日	**第8回リカレントスクール修了式**
オール女性医師キャリアセンター	12月18日	近畿地区 近隣医科大学 医療職サポート事業 共同フォーラム

実習報告会

「白衣の日」病院実習

がん教育講演会

クリニクラウン病院訪問

医療安全推進週間

国際大学院入学式

医

令和6年10月11日（金）17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において「令和6年度国際大学院入学式」が挙行されました。

入学式には木梨達雄学長をはじめ、大学院医学研究科金子一成研究科長・副学長、岡田英孝副学長、大学院医学研究科教務部人見浩史部長、同中邨智之副部長、国際化推進センター友田幸一センター長、同ラウール・ブルーヘルマンス副センター長や指導教員らが列席し、5名の入学を歓迎しました。

新入生自己紹介では、各新入生がこれからの日本での生活への期待と研究活動への意気込みを述べました。

入学生と出席者の集合写真

令和6年度白衣授与式

医

令和6年12月25日（水）11時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、従来の臨床実習生（医学）認証式を改めた、令和6年度白衣授与式が実施されました。これは臨床実習前OSCEおよびCBTに合格して5学年に進級し、臨床実習を開始する学生に対し、白衣の授与によって医師を目指す者としての自覚を促すことを目的に、今年度から名称を新たにしたものです。

医学部金子一成学部長・副学長、同教務部岡田英孝部長・副学長の挨拶に続き、実習先となる附属病院および総合医療センターの松田公志病院長、杉浦哲朗病院長から訓示が行われ、学生たち一人一人に慈仁会から寄贈の真新しい白衣が授与されました。学生代表による誓いの言葉では、実習への不安と期待が述べられ、式後には真新しい白衣に身を包み晴れやかな表情で集合写真に収まる姿がありました。

集合写真

関西医科大学学園祭2024

令和6年10月26日（土）・27日（日）の両日、「COLORS」をテーマにした関西医科大学学園祭2024が枚方キャンパスにおいて開催されました。雨天の予報でしたが、時折晴れ間も見られ、両日とも多くの方が来場。同医学部棟加多乃講堂や中庭に設置された特設ステージでは、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部による公演、人気アーティストを招いたコンサートなど、2日間にわたって多彩な企画が繰り広げられました。また、各クラブや留学生による、それぞれの個性が存分に発揮された模擬店も出店されるなど、規制が緩和された昨年の「Revival」から、「COLORS」の文字通り多種多様な催しで大盛況の学園祭となりました。

フォークソング部による特設ステージ

令和6年度第1回・第2回大学院企画セミナー

医

令和6年10月4日（金）17時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、大阪大学免疫学フロンティア研究センター長田重一特任教授を講師に迎え、令和6年度第1回大学院企画セミナーが開催されました。光免疫医学研究所免疫部門福山英啓研究所教授の司会の下、長田教授が「細胞膜の非対称性：その維持と崩壊」をテーマに講演し、教職員や大学院生ら67名が参加。これまでの研究の経過をたどり、細胞の構造を調べる研究過程、タンパク質であるスクランブラーゼやフリッパーゼの作用機構、その異常が関与すると考えられる疾患を取り上げ、今後の展望について紹介しました。

また、同10月10日（木）17時30分から同会場において、九州大学大学院薬学研究院革新的バイオ医薬創成学米満吉和教授を講師に迎え、第2回大学院企画セミナーが開催されました。医学部胆膵外科学講座里井壮平教授の司会の下、米満教授が「我々が発見した高い抗腫瘍活性を持つGAIA-102の臨床開発：患者さんが教えてくれること」をテーマに講演し、教職員や大学院生ら51名が参加。免疫療法の歴史から免疫細胞療法の利点と問題点、免疫細胞の一種であるNK細胞の培養研究で発見されたNK様細胞（GAIA-102）が固形腫瘍に強い抗腫瘍効果を示すこと、その製剤化に向けて実施した患者さんの臨床データから得られた知見を取り上げ、現在進行中の臨床試験についても紹介しました。

両日とも講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。

フリッパーゼの作用機構を解説する長田教授

NK様細胞の効果について紹介する米満教授

令和6年度解剖体慰霊碑供養

医

令和6年11月6日（水）11時から建仁寺塔頭正伝永源院（京都市東山区）において、令和6年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のためにご遺体を提供された御霊を供養する儀式で、白菊会役員、木梨達雄学長をはじめとする教職員が参列。僧侶による読経が捧げられ、参列者は哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。

慰霊碑の供養をする木梨学長

第50回関西医科大学実験動物慰霊祭

医

令和6年10月29日（火）14時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第50回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、木梨達雄学長や附属生命医学研究所実験動物飼育共同施設大隈和施設長（医学部微生物学講座教授）をはじめ、動物実験に関わる教職員等が列席しました。参加者全員で黙とうを捧げたのち、大隈施設長が、これまでの医学の発展における実験動物の存在意義と重要性、そして今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要性を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後も研究者や教職員が次々に慰霊に訪れ、尊い命を捧げた実験動物の冥福を祈りながら菊の花を手向けました。

慰霊の辞を捧げる大隈施設長

第43回関西医大白菊会総会

医

令和6年10月23日（水）13時から枚方市総合文化芸術センター1階ひらしんイベントホールにおいて、第43回関西医大白菊会総会が開催され、本学教職員と篤志により医学教育のための献体を希望する会員ら101名が参加しました。第1部では木梨達雄学長、白菊会藤澤直子会長の挨拶、医学部整形外科学講座堀井恵美子理事長特任教授による特別講演の後に、行事・会計報告、令和6年度予算審議などの議事を実施。第2部では、白菊会堂迫千草副会長と堂迫康雄トリオの演奏による「堂迫千草オンステージ」が上演され、会場は大いに盛り上がりました。

木梨学長による挨拶

子ども大学探検隊

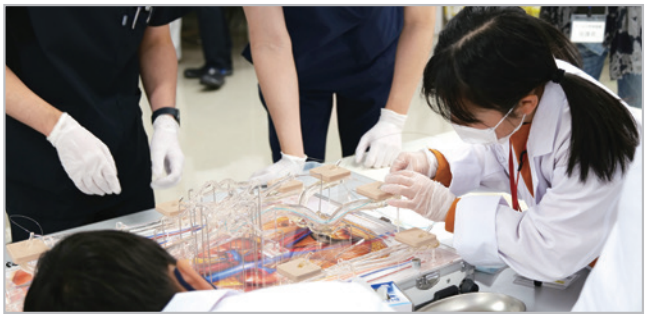
医

令和6年12月7日（土）10時から、枚方キャンパス医学部棟において「今の医療にふれる体験学習～見て・触れて・健康について考えよう～」をテーマに「子ども大学探検隊」が実施されました。これは枚方市内在住および在校の小学生を対象とした事業で、今年度は19名が参加しました。

当日は医学部放射線科学講座谷川昇教授の挨拶で始まり、シミュレーションセンターに移動したのち、グループに分かれて「血管造影・血管内治療」「カテーテル挿入」「エコー」のシミュレータを体験しました。

続いて、同姉帯優介助教による「放射線を見てみよう」、同小塚健倫講師による「CT画像を用いてバーチャルで身体の中を見てみよう」の各講演が実施されました。放射線を可視化できる「霧箱」や、人体の断面を見ることができる模型を用いた実演講演で、参加者たちは可視化された放射線を真剣に見つめたり、断面の説明を聞いたりして熱心に取り組んでいました。

最後は参加者それぞれに受講証が手渡されたのち、プログラム責任者の同狩谷秀治准教授により「今日の出来事を覚えておいて、将来に生かしてほしい」と締めくくられ、プログラムは終了しました。


カテーテルの挿入体験に取り組む参加者

保護者会懇談会を開催 3学部それぞれで教職員と保護者が情報交換をする場を設けました。

医

名　称	慈仁会全国懇談会
日時・場所	令和6年10月20日（日）13時～　枚方キャンパス医学部棟
参加者	慈仁会垂水律隆委員長、金子一成副学長・医学部長、教務部岡田英孝部長・副学長、学生部谷川昇部長、各学年クラスアドバイザー、教員、保護者等
内　容	挨拶および現況報告、クラス別懇談会、個別懇談会

看

名　称	看護学部保護者懇談会
日時・場所	令和6年11月2日（土）10時～　枚方キャンパス看護学部棟
参加者	加藤令子学部長、教務部李錦純部長、学生部大橋敦部長、国試対策委員会酒井ひろ子委員長、各学年担任、各学年チューター、保護者等
内　容	学修の進捗状況および学生生活・国試対策について、各学年状況報告、個人面談

リ

名　称	リハビリテーション学部保護者懇談会
日時・場所	令和6年11月16日（土）11時～　牧野キャンパスリハビリテーション学部棟
参加者	飯田寛和学部長、理学療法学科池添冬芽学科長、作業療法学科種村留美学科長、教務部佐藤春彦部長、学生部吉村匡史部長、キャリア支援委員会野村卓生委員長、保護者等
内　容	全体会（学部長・学科長挨拶、教務部・学生部・キャリア支援委員会報告）、茶話会、メンターとの個別面談

サン・カミッロIRCCS病院およびヴェネツィア・カフォスカリ大学の代表団が本学訪問

令和6年10月8日(火)から10日(木)にかけて、サン・カミッロIRCCS病院およびヴェネツィア・カフォスカリ大学の代表団が、バイオメディカルおよび神経リハビリテーション研究における革新的なアプローチに関する共同研究の協議のために本学を訪問しました。

サン・カミッロIRCCS病院は、ヴェネツィアのリド島に位置し、先進的な神経リハビリテーションで名高い研究病院です。今回、同病院の病院長兼神経リハビリテーション部門長であるティツィアーノ・サルヴァドーリ医学博士、健康医療総監のマウリツィオ・アニョレット医学博士、臨床薬剤師のダビデ・フランチェスキーニ博士、他4名が来学しました。協議の場には本学を代表して、木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長、附属病院松田公志病院長、医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長・学長特命教授、医学研究科教務部人見浩史部長(医学部iPS・幹細胞再生医学講座教授)が出席しました。

木梨学長と松田病院長は、本学の学術および臨床活動の概要を発表し、サン・カミッロIRCCS病院のヘルスケアイノベーションテクノロジーラボからは、フランチェスキーニ教授と主任研究者のパウエル・キーパー博士が神経リハビリテーションおよびバイオメディスンに関する最先端の研究を発表しました。人見教授と医学部リハビリテーション医学講座長谷公隆教授、同神経内科学講座薬師寺祐介教授と髙橋牧郎教授、リハビリテーション学部作業療法学科種村留美学科長・教授、そして医学部小児科学講座石崎優子診療教授もそれぞれの研究テーマを発表し、再生医療、神経疾患、作業療法、医療機器についてコラボレーションの可能性があることを強調しました。ヴェネツィア・カフォスカリ大学の分子科学・ナノシステム学科のフラビオ・リッツォリオ教授も会議に参加し、同学科の学術分野の概要を発表しました。

サン・カミッロIRCCS病院、ヴェネツィア・カフォスカリ大学、そして本学の出席者は、コラボレーションのテーマ、ダブルディグリー・プログラム、基礎医学および臨床医学における学生交流など、さまざまなトピックについて詳細に議論し、MOU (Memorandum of Understanding)に基づく将来の取り組みの基盤を築きました。代表団はまた、光免疫医学研究所、綜合研究施設、シミュレーションセンター、附属病院を見学しました。在大阪イタリア総領事マルコ・プレンチペ氏と、イタリア大使館科学駐在官であるジャンルイージ・セリアーニ博士(CNR：Consiglio Nazionale delle Ricerche)も見学に参加しました。

木梨学長(右)とサルヴァドーリ病院長(左)

集合写真

THE世界大学ランキングランクイン

令和6年10月9日(水)、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」による世界大学ランキング2025が発表されました。その結果、本学は『1201-1500』位にランクイン。関西圏の私立大学では1位タイ、国公立大学を含む関西圏全大学のなかでも第6位にランクインしました。

また、同年6月に発表された同誌のTHEインパクトランキングでも、本学は「SDGs 3(保健)」で世界91位、「SDGs 9(産業と技術革新)」で601-800位にランクインするなど、高い評価を得ています。

THE World University Rankings 2025

在大阪インドネシア共和国総領事ら視察

令和6年11月7日(木)、在大阪インドネシア共和国総領事のJohn Tjahjanto BOESTAMI氏、枚方市の清水秀都副市長らが本学を視察に訪れました。一行は、山下敏夫理事長、木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長と会談。その後、本学からは木梨学長、附属病院松田公志病院長、友田センター長、医学部微生物学講座大隈和教授、インドネシア共和国から本学に留学中の大学院生と同国籍の博士研究員が同席し、本学と附属病院の概要が紹介されました。両国の研究や医療について意見を交換した後には、留学中の大学院生が在籍する医学部微生物学講座の研究室、同博士研究員が在籍する光免疫医学研究所など学内を見学。それぞれの研究内容について熱心に質問する場面もあり、関心の高さが感じられました。

会談後の集合写真

日伊国際シンポジウム

令和6年11月27日(水) 13時からクエスチョンビルディング(京都市中京区)において、日伊国際シンポジウム「スマートフードと栄養補助食品―フードテクノロジー新時代への一歩―」が開催されました。これは食生活の品質と生物化学的特性によって世界長寿ランキングで上位に入る両国が、長寿、女性の健康、ナチュラルフードをテーマに栄養補助食品の可能性を議論するものです。

開会挨拶では、本学医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長・学長特命教授が総合司会を務め、在大阪イタリア総領事マルコ・プレンチペ氏、イタリア万博政府代表大使マリオ・バッターニ氏に加え、本学国際化推進センター友田幸一センター長も登壇。医学部医化学講座中川学講師らのチームによる「肥満者向け天然ステビアプロジェクト」、ペッツォッティセンター長による「食品分子科学におけるラマン分光的考察」など、講演が多数行われました。閉会挨拶には医学部医化学講座清水(小林)拓也教授が登壇し、両国のフードテクノロジーの発展を願いました。

講演中のペッツォッティセンター長

女性医師奨励賞受賞者による講義

令和6年11月7日(木) 12時50分から医学部1学年を対象とした「医療プロフェッショナリズムの実践A1」において女性医師奨励賞受賞者2名の講義が行われました。女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育、研究または診療の分野において、業績が極めて顕著である方を表彰するものです。受賞者による講義は今回が初めてで、女性のみならず男性も含め学生のうちから医師としてのキャリアプランを描くことができるようにとの趣旨で実施されました。

オール女性医師キャリアセンター運営委員である医学部放射線科学講座河野由美子講師の総論講義に続き、受賞者である同小児科学講座田邉裕子診療講師と同上部消化管外科学講座向出裕美診療講師がそれぞれ自身のキャリアを振り返りながら女性医師のキャリアに関する講義を実施。聴講した学生から質問が寄せられるなど関心の高さがうかがえました。

河野講師による講義

医

令和5年度「学生からの教育評価」関西医科大学教育奨励賞表彰者紹介

本学では、教員の教育活動を奨励しその資質の向上を図ることを目的として、学生による教育評価アンケートを実施しており、令和5年度の講義について学生に教育評価アンケートを集計した結果、高い評価を得た教員に対して「関西医科大学教育奨励賞」を授与いたしました。

今回、個人(医学部教員部門)で表彰を受けた教員を紹介し、コメントを掲載いたします。

1学年1位　　健康科学センター　黒瀬　聖司 講師

■担当科目：

健康科学 A1：生活習慣病の予防や治療、健康増進と身体活動、運動処方、科学的トレーニング、スポーツ医学(心肺蘇生法含む)などを取り上げる。

運動生理実践セミナー：運動を行うことで身体に起こる変化を体験および数値化し、その変化を科学的に考察する。

この度は、令和5年度関西医科大学教育奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。私が主に担当しているのは健康科学A1、運動生理実践セミナーであり、「自分自身を知り、健康づくりに役立つ」をテーマに、健康への新たな「気づき」を促すことを重視しました。具体的には運動関連遺伝子の評価、体力測定、尿からの塩分やタンパク質摂取量の推定演習などを通じて自分の身体を評価し、自らの健康行動を最適化できるように授業を展開しました。講義中はKMULASを活用してアンケートを行い、その結果をもとにフィードバックしたり、スポーツ実習では様々な種目を体験してもらったり、仲間との交流の促進や身体を動かす爽快感が実感できるようにしたりと工夫しました。今後も学生の声を聞きながら、教育の質や効果を高められるように取り組みたいと思います。健康科学センターの木村穣理事長特命教授をはじめ、多くの非常勤講師の先生方の御指導の下で教育を行っており、この場を借りて深くお礼申し上げます。

2学年1位　解剖学講座　小池　太郎 講師

■担当科目：

生体の構造と機能 P2b (1)・P2b (2)：肉眼解剖学講義や骨学実習、神経解剖学講義を通し、骨の構造や神経系、人体の深層への理解を深める。解剖実習の過程においては、学生ひとりひとりのこれまでの経験・体験とも照らし合わせながらご遺体に対し常に深い感謝と畏敬の念をもって接することができるよう、医師としての職責を自覚し倫理観、使命感、責任感を涵養する。

このたび、関西医科大学教育奨励賞を受賞するという大変光栄な機会をいただきました。解剖学は体の構造を解き明かす学問であるため、実物を見て学ぶことで理解が深まると考え、講義や実習に取り組んでまいりました。また、実習期間が長期にわたることから、学生の皆さんが楽しく学べるように心がけてきました。この受賞を励みに、学生の皆さんに構造を解き明かす面白さを感じてもらえるよう、講義や実習をさらに充実させていきたいと思います。

3学年2位　救急医学講座　池側　均 学長特命准教授

■担当科目：

救急・中毒：代表的な救急病態や重症外傷、中毒診療、および災害時に必要な医学・医療を系統的に学習し、初期治療を行いながら、迅速な鑑別診断へと導く筋道だった思考を展開し、問題を解決する手法を身につける。

外科総論：手術に関すること、創傷の処置・処理に関すること、侵襲的な検査に関すること等について学習する。

地域医療の実践 A1：地域医療の実際について、講義やグループワーク、実習などを通して理解を深める。

「令和5年度「学生からの教育評価」教員部門」関西医科大学教育奨励賞を賜り、全く予想していないことで驚くとともに、大変光栄なことに感じています。平成28年に救急医学講座に赴任し、本学の学生教育に携わることになりました。国家試験や各学年で実施される試験に合格できる知識を習得してもらうことは当然として、救急医療に関連する改訂されたガイドラインの解説を行うなど最新の医学知識を提示したり、病院前診療や災害医療などで救急医療が果たしている社会への役割を明示したりすることで、救急医学の現在地を知ってもらい、ひいては医学生自らの医学知識を深められるきっかけ作りになる様には腐心してきたつもりです。すごく特別な取り組みをしているつもりはありませんが、今後も医学生の関心を得て、学習意欲に応えられるように研鑽を積み重ねたいと思います。有難うございました。

※3学年については1位表彰者が本学教員を辞していますが、規程に則り繰り上げを行わないため、次点の教員のコメントを掲載いたします。

4学年1位　麻酔科学講座　梅垣　岳志 准教授

■担当科目：

麻酔・集中治療：おもに麻酔全般、集中治療、ペインクリニック（痛みの診療）について学習する。

LPBL A4：2年次のLPBL A2から継続して、臓器別系統別コースの学びを基本に、症候論を通して臨床推論能力を育成する。

このたび、「令和5年度 学生からの教育評価 教員部門 関西医科大学教育奨励賞」という素晴らしい賞をいただき、心より感謝申し上げます。この賞は、私自身の努力というよりも、学生の皆さんが学びに真摯に向き合い、一期一会を大切にしてくださった成果であると深く感じております。講義や実習で多くの方々と向き合うたび、関西医科大学で学生だった頃の自分を思い起こし、身の引き締まる思いを新たにしております。

麻酔・集中治療という分野は、医療の最前線で患者さんの命を守る責任ある仕事です。授業では国家試験に向けた内容を取り入れつつ、この仕事の責任の重みややりがいを少しでもお伝えできていれば幸いです。今後も、学生の皆さんが臨床現場で自信を持って活躍できるよう、実践的で思考力を養う講義に努めてまいります。改めて学生の皆さん、並びに関係の皆様に心より感謝を申し上げ、この賞を励みにさらなる精進を重ねてまいります。

第2回ホームカミングデー

看

令和6年11月2日（土）13時から枚方キャンパス看護学部棟4階討議室において、令和6年度第2回ホームカミングデーが開催されました。当日は、卒業生と教職員に加え、看護学研究科に進学した大学院生や在学生らも参加し、学生時代の懐かしい思い出や現在の仕事などを語り合いました。また、各教員からは自身が教育職の道を選んだ理由や現在に至るまでの過程が紹介され、看護師や保健師として経験を積む中で直面するキャリアについて、アドバイスする場面がありました。

それぞれの経験を語り合う参加者

常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業

看

看護学部、リハビリテーション学部は令和5年度から常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業を推進し、中学生・高校生のキャリア形成を応援しています。

看護学部での受け入れとなる今回は、令和6年12月25日（水）9時30分から、枚方キャンパス看護学部棟において体験授業が実施され、同中学校の生徒47名が参加しました。生徒たちはオリエンテーションの後に、4グループに分かれ、血圧測定やシミュレータを使って心音と呼吸音の聴診をしたり、妊婦を疑似体験したりしました。これらを通じて大学での専門的な学びを具体的にイメージできる良い機会となったようでした。

血圧測定を体験する生徒ら

第8回学術祭

令和6年12月7日(土)、8日(日)、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、「第8回学術祭」が開催されました。これは、本学における学術研究の更なる発展を目的としたもので、今年で8回目の開催となりました。

初日は木梨達雄学長による開会の辞で幕を開け、両日とも多くの参加者が訪れました。

第８回学術祭

開会の辞を述べる木梨学長

【主なプログラム】

■三学部合同シンポジウム

「未来を担う高度医療人材養成の取り組み」

医学部内科学第一講座伊藤量基教授が座長を務め、附属病院がんセンター金井雅史センター教授による基調講演ののち、医学部、看護学部、リハビリテーション学部の4名のシンポジストによって「高度医療人材養成」をキーワードとした演題が発表されました。

基調講演を行う金井センター教授

■KMU研究コンソーシアム

医学部救急医学講座鍬方安行教授が座長を務め、7名の演者から取り組んでいる研究の概要が発表されました。

■ランチョンセミナー

伊藤教授が座長を務め、大阪暁明館病院消化器内科富永和作顧問による講演が行われました。

■「医学会賞応募演題」

12名の演者による口演が行われました。

受賞者は4月発行予定の「広報Vol.69」にてご紹介する予定です。

ポスター発表

■「ポスター発表」

エントランスホールにて、若手研究者や留学生、大学院生、研究医養成コース学生ら34名による「ポスター発表」が行われました。それぞれのポスターの前では参加者同士の活発なフリートークが見られました。

ひらかた市民大学

令和6年12月8日(日)には医学部眼科学講座今井尚徳教授の「加齢と眼疾患について」、同内科学第二講座入江潤一郎診療教授の「糖尿病を正しく知り、予防と治療の工夫をしよう―チームで取り組む糖尿病治療―」の2つの講演が行われました。

講演を行う今井教授

参加者からの質問に回答する
入江診療教授

このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会および枚方産学公連携プラットフォームの事業として毎年開催されているもので、枚方市内の大学の専門的な知識・情報を学習できる講座を市民の皆さんに提供しています。講演では加齢による発症が多い眼疾患の症状や治療方法、糖尿病を予防・管理する理由と方法などが解説され、講演終了後には活発な質疑応答が行われました。

冬期インターンシップ

看

令和6年12月9日(月)～12月26日(木)まで、附属病院・総合医療センター・香里病院において看護学部生冬期インターンシップが実施され、本学看護学部3年次の学生67名が参加しました。これは、就業環境での看護師業務の体験を通じて自身の適性を把握し、業務への理解を深めることを目的とするものです。

学生らは各病棟で先輩看護師に付き添われながら看護処置、看護ケア、搬送などを体験。疑問に思ったことを先輩看護師に確認したり、教わったことや気づいたことをメモにとったりする様子が見られ、参加した学生にとって貴重な一日となったようでした。

先輩看護師の処置に同行する参加学生

病院見学会

リ

令和6年9月21日(土)、12月21日(土)ともに13時から枚方キャンパス医学部棟および附属病院において、リハビリテーション学部病院見学会が開催されました。本見学会は受験生を対象に、リハビリテーション学部の学生スタッフおよび教員が本学附属病院の総合リハビリテーションセンターや外来などを案内するものです。

附属病院に勤務している理学療法士や作業療法士が、参加者に設備や機器、理学療法と作業療法の違いについて説明。また、希望者には医学部棟内のシミュレーションセンターや図書館の案内、個別相談の場も設けられました。

リハビリテーション機器の説明を聞く参加者

医療ニーズ発表会

令和6年11月27日(水) 17時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、今年で7回目となる「医療ニーズ発表会」がハイブリッド方式で開催されました。これは学内教職員から募った医療ニーズを、その新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、これまでこの会での発表を契機に多くの医療製品が製品化されてきました。冒頭の齋藤貴徳産学連携・知的財産・社会貢献担当副学長(医学部整形外科学講座教授)の挨拶に続き、産学知財統括室佐々木健一URA・産学連携コーディネータが本発表会の趣旨や本学の概要を説明。その後は応募された医療ニーズの中から、選抜された22件について発表が行われました。

挨拶する齋藤副学長

病　院　第7回関西医科大学連携病院の会

令和6年11月2日（土）16時30分から、リーガロイヤルホテル（大阪市北区）「山楽の間」において、「第7回関西医科大学連携病院の会」が開催され、本学地域医療センター連携病院の理事長・病院長ら延べ399名が参加しました。この日は地域医療センター木下秀文センター長（医学部腎泌尿器外科学講座教授）司会のもと、山下敏夫理事長の挨拶で開幕。第一部では一般社団法人大阪府私立病院協会・一般社団法人日本医療法人協会加納繁照会長が「2024年度診療報酬改定を踏まえた病院経営の現状と今後」と題して講演しました。

続いて附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長、香里病院岡崎和一病院長、くずは病院高山康夫病院長が、それぞれ附属医療機関の近況を報告しました。その後会場を同ホテル「ロイヤルホール」へ移し、第二部の懇親会がスタート。本学各講座の教授、各附属医療機関の診療科長や教員も出席し、出席者と盛んに情報を交換するなど、親交を深めました。

挨拶する山下理事長

病　院　第21回医療安全大会

本学の各附属病院における医療安全に関する取り組みを共有し、医療安全意識の向上を図ることを目的に、令和6年度よりオンデマンド形式にて医療安全大会を公開します。

期　間：令和6年12月17日（火）～令和7年3月31日（月）
テーマ：「栄養管理と医療安全」
内　容：1）「管理栄養士の病棟配置」　附属病院栄養管理部　金谷　節子　主任
2）「医療安全×NST『入院時早期栄養管理』整形外科手術患者における栄養管理の必要性GLIM 基準の活用の実際」
くずは病院医療安全管理部　小林　史朋　部長

病　院　輸血・細胞療法部山岡技師長、医療安全管理部川瀬科長が文部科学大臣表彰を受賞

令和6年度医学教育等関係業務功労者に附属病院輸血・細胞療法部山岡学技師長と同医療安全管理部川瀬泰裕科長が選ばれ、文部科学大臣表彰を受けました。また、川瀬科長は令和6年11月26日（火）文部科学省にて行われた表彰式に出席しました。

同省では、国立、公立および私立の大学における医学・歯学に関する教育研究または患者診療などに係る業務に関し、顕著な功労のあった者を讃えることで、関係職員の士気を高揚し、もって医学または歯学教育の充実向上を図ることを目的として大臣表彰を行っています。今回の2名は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。

山岡技師長

川瀬科長

大学・病院　災害訓練等

令和6年10月19日（土）8時50分から、附属病院で第17回関西医科大学附属病院災害訓練が実施されました。今回の訓練は枚方市内で震度7の地震が発生したことを想定して実施され、発災後すぐに院内災害対策本部を設置。1階の参集受付に集まった職員らがトリアージポスト、赤・黄・緑・黒の各ゾーンにそれぞれ配置され、搬送されてきた傷病者のトリアージや処置、傷病者家族らへの説明を真剣な面持ちで実施しました。また今回は訓練途中からの降雨があり、予定にはない動きを余儀なくされる場面もありましたが、参加者は臨機応変に対応していました。訓練終了後の反省会では降雨時の対応を含め、良かった点、今後改善すべき点などが共有されました。

同日9時からは、枚方キャンパス医学部棟および看護学部棟で医学部1学年、看護学部1、3、4年次の学生に対して避難訓練が実施されました。参加した学生は、避難訓練・点呼および安否確認訓練に臨み、その後、防災に関するガイダンスを受けました。また今回、看護学部2年次の学生が附属病院災害訓練に模擬患者役として参加しました。同時に、法人危機対策本部設置訓練も実施され、参加した職員が初動対応にあたりました。

同11月13日（水）13時15分からは、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟でも1年次の学生、教職員らが参加して防災・消防訓練が実施されました。

附属病院災害訓練の様子

附属病院・総合医療センター　令和6年度近畿地方DMATブロック訓練・総合医療センター災害訓練

令和6年11月8日（金）から11月9日（土）にかけて令和6年度近畿地方DMATブロック訓練が大阪府下全域で実施されました。これは近畿地区2府4県にて持ち回りで実施しているもので今年度は大阪府が当番府県として行われ、災害拠点病院である本学附属病院に北河内中河内医療圏の活動拠点本部が設置されました。8日の14時に上町断層帯地震が発生、大規模な停電・断水や多数の傷病者が発生した想定のもと府外のDMAT隊も参加し、本部立ち上げ訓練や衛星電話を使用した通信訓練、医療圏内の情報共有などが行われました。

また、総合医療センターにおいても同日ブロック訓練と連動して災害訓練が実施され、災害対策本部・トリアージなど各エリアの立ち上げ、傷病者受け入れや衛星インターネットのスターリンクを使用した通信訓練、南館からの重症者移送訓練が実施されました。全体の統括は本館2階に設置された院内災害対策本部で行われ、同階に設置されたDMAT支援指揮所では、府外のDMATによって広域搬送などの支援が行われました。

北河内中河内医療圏活動拠点本部の様子

香里病院　消防・災害合同訓練

令和6年11月30日（土）11時から香里病院では初となる災害訓練が実施され、教職員66名が参加しました。地震発生に伴って出火したとの想定で実施され、訓練参加者は1階食堂に設置した災害対策本部に集合、災害対策本部長である岡崎和一病院長の指揮のもと訓練が進行しました。役割ごとに10班に振り分けられた各班員は消火活動、エレベーター閉じ込め患者さんの救護と搬送、トリアージポストの運用、救急車搬送など、めまぐるしく変化する状況に合わせて臨機応変に対応しました。また水消火器による訓練や、地下水浄化システムによって生成された地下水を用いたバケツリレーも行われ、災害に対する意識強化につながる訓練となりました。

エレベーター閉じ込め患者さんを搬送する訓練参加者

附属病院　国際がん新薬開発センター・新薬開発科開設

令和6年11月1日付で国際がん新薬開発センターおよび新薬開発科が開設されました。

大学病院では国内初のがん新薬開発に特化した治験治療センターおよび診療科で、西日本におけるがん新薬開発の一拠点として日本の抗がん剤開発の出発点となるがん新規薬剤開発を行います。本邦におけるがん医療においては近年、欧米に比して新薬のドラッグロス・ドラッグラグ等の早急に解決すべき諸問題への対処が喫緊の課題となっています。海外でしか開発されていないがん新薬を本学附属病院においていち早く患者さんに一つでも多くの治療オプションとして届ける体制を整え、がん新薬への革新的アクセス向上を目指しています。

新薬開発科は、附属病院の各診療科・各部門のみならず国内・海外の大学病院やがんセンターなどのがん新薬開発機関および製薬企業とともに共同・相互連携しながら、日本の抗がん剤早期開発をグローバルレベルで推進します。

附属病院　Newsweek誌「World's Best Specialized Hospitals 2025」に整形外科分野でランクイン

令和6年9月17日(火)、国際ニュース週刊誌「Newsweek」社とStatista社が共同で調査を行い決定した「World's Best Specialized Hospitals 2025」のランキングが発表されました。

本ランキングは、12の専門分野における世界的に評価の高い病院を選出し表彰するもので、今回本学附属病院が「整形外科(Orthopedics)分野」で144位にランクイン。大阪大学医学部附属病院・東京大学医学部附属病院・大阪市立大学医学部附属病院(現大阪公立大学医学部附属病院)・京都大学医学部附属病院に次ぐ5位、国内の私立大学病院で唯一のランクインとなりました。

総合医療センター　第25回市民健康講座

令和6年10月5日(土)14時から、鶴見区民センター(大阪市鶴見区)において第25回市民健康講座が開催されました。金田浩由紀副病院長、菅俊光副病院長が座長を務め、心臓血管病センター成子隆彦センター長の「狭心症・心筋梗塞について～ならないために　なってしまったら～」、下部消化管外科福長洋介部長の「増えている大腸がん～からだに優しくがんを治す術(すべ)～」、整形外科松矢浩暉部長の「足のつけ根や膝の痛みでお困りの方へ～股／膝痛の原因と対処・治療法について～」の3題が講演され、180名が来場しました。

手術の変遷を解説する福長部長(壇上右)

総合医療センター　令和6年度防犯訓練

令和6年10月17日(木)15時30分から地元の守口警察署の協力を得て、総合医療センターで防犯訓練が実施されました。刃物を使用した傷害事件の発生から警察官による制圧・逮捕までを想定し、スタッフによる警察への通報、被害者の搬送、周辺患者の避難誘導、防刃チョッキ等を着用した保安課職員による犯人への対応を行いました。その後、刺股の使用訓練も行われ、防犯に対する職員の意識が高まる訓練となりました。

刺股使用訓練を受ける参加者

総合医療センター　糖尿病デーフェスタ2024

令和6年11月16日（土）14時から総合医療センター本館1階において、「世界糖尿病デーフェスタ2024　糖尿病と災害　災害時に必要なものってなんだろう？～備えあれば憂いなし～」が開催され、患者さんやそのご家族など22名が来場しました。内分泌代謝内科池田彩美病院助教による「糖尿病と災害」と題した講演、健康科学センター後藤さやか健康運動指導士による運動実演が行われました。そのほかにもインスリン体験、血糖測定、医師相談、災害グッズ展示などのコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。

講演する池田病院助教

総合医療センター　クリスマスコンサート

令和6年12月7日（土）14時から総合医療センター本館1階において、クリスマスコンサートが開催され、入院患者さんやそのご家族などが演奏を楽しみました。

このコンサートは大阪市旭区を中心に活動する旭弦楽アンサンブル「あるこ」の協力のもと開催され、「愛燦燦」「ホワイトクリスマス」などが演奏されました。プログラムには院内保育所に通う園児との合奏や健康運動指導士によるエクササイズも盛り込まれ、老若男女が楽しめるイベントとなりました。イベントの様子はYouTubeで同時配信され、デイルームのモニターや患者さんご自身のスマートフォンで鑑賞する姿も見られました。

演奏に聞き入る参加者

香里病院　市民公開講座

令和6年10月5日（土）14時から、アルカスホール（寝屋川市立地域交流センター）（寝屋川市）メインホールにおいて、「アレルギー・免疫のはなし」をテーマに市民公開講座が開催され、170名が来場しました。

岡崎和一病院長の挨拶後、アレルギーセンター濱田聡子センター長（耳鼻咽喉科部長）の「アレルギー性鼻炎のはなし－重症化させない最新治療－」、皮膚科中谷佳保里医長の「アトピー性皮膚炎について」、総合診療科石丸裕康部長の「知っていますか？リウマチ・膠原病の症状と治療について」、内科延山誠一部長の「咳と喘息のはなし」の4題が講演されました。また看護部辻佐世里副部長と関医訪問看護ステーション・香里の長濱かおり師長による健康相談ブースへも、参加者が足を止め熱心に相談する様子が見られました。

講演の様子

香里病院　日曜乳がん検診（ピンクリボン）

令和6年10月20日（日）9時から13時まで乳腺センターにおいて、日曜乳がん検診を実施しました。これは、認定NPO法人J.POSHが、子育て・介護・仕事・家事などで多忙な平日を過ごす女性が日曜日に乳がん検診を受けられるようにとの意図で取り組む「J.M.S®：ジャパン・マンモグラフィー・サンデー（毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくり）」に賛同し、香里病院で平成23年から実施しているものです。当日は寝屋川市民他23名が受診しました。

担当者集合写真

くずは病院 Webからの予約変更受付を開始

くずは病院では、附属病院・総合医療センター・香里病院に続いて、令和6年11月から「やくばと病院予約」を用いてWebでの予約変更ができるようになりました。

卒後臨床研修センター

医師および歯科医師臨床研修プログラムフルマッチ

令和6年10月24日(木)、医師臨床研修マッチング協議会により医師臨床研修マッチング結果が公表され、令和7年度採用者が確定しました。附属病院および総合医療センターの研修プログラムはともに今回も100%のフルマッチとなりました。これは、同7月25日(木)および8月5日(月)、枚方キャンパスおよび附属病院において行われた「令和7年度臨床研修医採用試験」の結果を受けてのものです。附属病院は10年、総合医療センターは16年連続でのフルマッチとなりました。

また、同10月22日(火)、歯科医師臨床研修マッチングプログラムから歯科医師臨床研修マッチング結果が公表され、こちらも4年連続100%フルマッチとなりました。これは同8月10日(土)に枚方キャンパスで行われた「令和7年度研修歯科医採用試験」の結果を受けてのものです。

看護キャリア開発センター

第8期関医・看護師リカレントスクール

令和6年10月から12月まで、第8期関医・看護師リカレントスクールが開講されました。同10月2日(水) 10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において挙行された入校式には、受講する10名が臨みました。教職員8名が臨席する中、同スクール金子一成スクール長からの式辞に続き、受講生代表の挨拶が行われました。

およそ2カ月の開講期間では、リモートでの講義や、シミュレーションセンターでの最新の機器を使った演習、附属4病院の訪問看護ステーションでの実習など、看護師への復職を支援するためのプログラムが実施されました。

同12月4日(水)には修了式が行われ、受講生一人ひとりに金子スクール長から修了証書が手渡されました。修了生の挨拶では、「講師の姿に感銘を受け、もう一度看護師として働きたい、社会に貢献したい。」との言葉が述べられました。臨席した関係教職員からも今後への励ましの言葉が送られ、和やかな雰囲気のなかで、スクールが閉講しました。

入校式で式辞を述べる金子スクール長

本学教職員編著作物の紹介

令和6年1月～12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

● 『医学論文執筆のための30の訓え―研究ではなく物語』
教育センター　林　幹雄准教授・医学部英語教室　ラウール・ブルーヘルマンス教授　著・訳
出版：丸善出版　ISBN：9784621308868　発行：令和6年1月

学会主催報告

令和6年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第54回日本腎臓学会西部学術大会

■会　期　令和6年10月5日(土)～6日(日)　■場　所　アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)
■テーマ　至誠惻怛　―SDGsで発展する臨床腎臓病学―

本学術大会は、腎臓学分野の研究成果や診断・治療法について、西日本を中心とした医師、研究者、医療関係者が集まり議論を深める場です。姫路市長である清元秀泰医師が大会長を務め、医学部iPS・幹細胞再生医学講座が事務局を担当し、姫路市アクリエひめじで2日間開催されました。現職市長が大会長となるのは、これまで54回の開催で初めてのことでありましたが、2,000名以上の多くの方に参加いただき、盛会に終えることができました。

【事務局長：医学部iPS・幹細胞再生医学講座　人見　浩史　教授】

第27回日本低侵襲脊椎外科学会

■会　期　令和6年11月21日(木)～22日(金)　■場　所　大阪市中央公会堂
■テーマ　脊椎の除圧術と固定術、共に歩もう小侵襲化の未来へ

この度は伝統ある第27回日本低侵襲脊椎外科学会を関西医科大学整形外科学講座が主催させていただきました。今回は来年からMIST学会と合併するという大きな節目の医学部学会として中之島にある国の重要文化財である大阪市中央公会堂で開催いたしました。過去最高の演題数と過去最大の参加人数を記録し、盛会に終えることができました。脊椎外科もかつてない速度で低侵襲化が加速しており、ロボット手術を始めとする新たな手技が多数報告され今後のこの分野の発展の出発点になったと考えております。

【大会長：医学部整形外科学講座　齋藤　貴徳　教授】

学会賞等受賞情報

令和6年9月～12月の学会賞受賞者等を紹介します。

優秀演題賞

医学部胆膵外科学講座　橋本　大輔　准教授
■テ　ー　マ　R/BR膵癌に対する術前治療におけるCA19-9を標的としたchemotherapy switch
■授与団体　Japan Digestive Disease Week（JDDW）2024

優秀演題賞

医学部内科学第三講座　本澤　有介　講師
■テ　ー　マ　Prognostic efficacy using LRG assessment differs between Crohn's disease and ulcerative colitis
■授与団体　Japan Digestive Disease Week（JDDW）2024

優秀演題賞

医学部内科学第二講座　堀谷　啓太　助教
■テ　ー　マ　エンパグリフロジンは線維芽細胞におけるCCL2発現を抑制することでCCR2+マクロファージの動員を阻害し、心不全の進行を遅らせる。
■授与団体　The 41st Annual Meeting of the International Society for Heart Research Japanese Section（ISHR2024）

優秀発表賞（若手部門）

医学部精神神経科学講座　佃　万里　助教
■テ　ー　マ　注意欠如多動症および自閉スペクトラム症児のデフォルトモードネットワークに焦点を当てた定量脳波解析
■授与団体　第65回日本児童青年精神医学会総会

Young Oncologist Award

医学部上部消化管外科学講座　張野　誉史　助教
■テ　ー　マ　進行再発食道癌に対するICI＋FP療法の入院治療と外来通院：2施設後ろ向き観察研究
■授与団体　第62回日本癌治療学会学術集会

優秀論文賞＜症例＞

医学部呼吸器腫瘍内科学講座　池田　夢　任期付助教
■テ　ー　マ　A case of radiation recall pneumonitis caused by nivolumab + ipilimumab combination therapy（Nivolumab + Ipilimumab 併用療法によって生じたradiation recall pneumonitisの1例）
■授与団体　第65回日本肺癌学会学術集会

研修医AWARD

医学部肝臓外科学講座　大東　拓哉　研修医
■テ　ー　マ　切除不能肝細胞癌におけるConversion Surgeryの経験
■授与団体　第86回日本臨床外科学会学術集会

研修医AWARD

医学部肝臓外科学講座　松本　杏　研修医
■テ　ー　マ　切除不能肝門部胆管癌に対する集学的治療により根治切除し得た1例
■授与団体　第86回日本臨床外科学会学術集会

優秀演題賞

医学部衛生・公衆衛生学講座　保坂　直樹　研究員
■テ　ー　マ　原発性体腔液リンパ腫様のHHV8陰性単形性T細胞性移植後リンパ増殖異常症の1剖検例及び文献的考察
■授与団体　第56回日本臨床分子形態学会総会・学術集会

Ueda Heart Awards 2024 最優秀論文賞

医学部内科学第二講座　橋本　健太　研究医員
■テ　ー　マ　Frequency and Distribution of Sheet and Nodular Calcification in Coronary Arteries in Japanese Patients: An Autopsy Study
■授与団体　International Heart Journal誌

優秀演題賞

医学部内科学第三講座　高折　綾香　大学院生
■テ　ー　マ　術前治療を行った切除可能／切除可能境界膵癌の予後と便中Bifidobacterium属との関係
■授与団体　Japan Digestive Disease Week（JDDW）2024

学会賞

医学部腎泌尿器外科学講座　中本　喬大　大学院生
■テ　ー　マ　Development and Validation of a Preoperative Nomogram for Endoscopic Management Decision Making in Upper Urinary Tract Urothelial Carcinoma
■授与団体　第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会

優秀演題賞　実践部門

くずは病院関医デイケアセンター・くずは　横山　広樹　副主任
■テ　ー　マ　要介護高齢者に対するBerg Balance ScaleのKeyform開発
■授与団体　第11回日本地域理学療法学会学術大会

教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。（主に令和6年10月1日～12月31日　※判明分のみ）

■ テレビ等

医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	毎日放送 「よんちゃんTV」 （10月4日）	宮下診療教授がオンラインで取材を受け、結核の症状や免疫力の重要性について解説した内容が放送されました。
医学部下部消化管外科学講座 渡邉　純　教授	TBSラジオ 「腸から始まる健康ライフ」 （10月7・14・21・28日）	渡邉教授が腸に関する健康情報番組に出演し、大腸がんの特徴・治療方法・手術や、直腸がんの最新治療などについて解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE　とれたてっ！」 （10月10日）	宮下診療教授がスタジオ出演し、新型コロナウイルスの新しいワクチンであるレブリコンワクチンについて解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE　とれたてっ！」 （10月16日）	宮下診療教授がオンラインで出演し、結核の特徴や治療方法、大阪府で感染者が多い要因等について解説しました。
医学部眼科学講座 今井　尚徳　教授	ABCラジオ 「サクサク土曜日 中邨雄二です」 （10月19日）	今井教授がラジオ番組に出演し、網膜静脈閉塞症の原因や症状、治療方法、早期診断・早期治療の重要性を解説するとともに簡単な自己チェック方法を紹介しました。
看護学部在宅看護学領域 李　錦純　教授	NHK 「おはよう日本」 （11月6日）	日本で暮らす外国にルーツがある人たちが、認知症で日本語を話せなくなり母語でしかコミュニケーションが取れなくなる「母語がえり」についての特集で、外国ルーツの高齢者の現状について、李教授のコメントが紹介されました。
医学部iPS・幹細胞応用医学講座 六車　恵子　教授	BSテレビ東京 「いまからサイエンス」 （11月6日）	六車教授がスタジオ出演し、難病の原因解明・治療につながる可能性を持つ脳オルガノイドについて、作成方法や研究内容、今後の展望を解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	TBSラジオ 「生島ヒロシのおはよう一直線」 （11月25・26・27・28・29日）	宮下診療教授が「生島ヒロシの今さら聞けない？今こそ聞きたい！これからの新型コロナ」のコーナーに出演し、変異株・ワクチン・後遺症・治療方法・重症化リスク・季節性インフルエンザとの比較などについて解説しました。
医学部上部消化管外科学講座 山﨑　誠　教授	TBSラジオ 「腸から始まる健康ライフ」 （12月2・9・16・30日）	山﨑教授が腸に関する健康情報番組に出演し、食道がんに関して生活習慣によるリスク・診断方法・免疫治療・手術などについて解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	関西テレビ 「旬感LIVE　とれたてっ！」 （12月3日）	宮下診療教授がスタジオ出演し、マイコプラズマ肺炎・インフルエンザ・新型コロナウイルスの「トリプルデミック」の危険性と、感染対策について解説しました。

■ WEBメディア等

附属生命医学研究所ゲノム解析部門 日笠　幸一郎　研究所教授	日経バイオテク （10月9日）	日笠研究所教授を中心とした本学のチームとジェネシスヘルスケア株式会社とが、ゲノムビッグデータとA.I.を活用した日本で初の共同研究を行うことが掲載されました。
医学部腎泌尿器外科学講座 木下　秀文　教授 附属病院薬剤部 打谷　和記　副部長	日経バイオテク （10月24日）	近畿大学他との共同研究において前立腺がんの診断を受け遠隔転移のない患者のうち、治療効果の高いホルモン療法を受けた人の診療データを抽出し、ホルモン療法の効果に影響を与える因子を解析したことが掲載されました。
医学部胆膵外科学講座 里井　壯平　教授	日経メディカル （12月5日）	第62回日本癌治療学会学術集会領域横断シンポジウム10で、里井教授が「膵癌腹膜播種制御の現在・未来」と題して腹腔内化学療法と現在進行中の臨床試験について解説した記事が掲載されました。
教育センター 西屋　克己　センター教授	ロボスタ（12月19日） fabcross（12月20日） QLifePro（12月25日）	西屋センター教授と株式会社テムザックが、生成AIを搭載した医療面接をトレーニングするための「医療面接ロボット」を開発した旨が掲載されました。
光免疫医学研究所 小林　久隆　所長	DOCTOR'S MAGAZINE （12月25日）	300号特別企画のがん治療特集において、光免疫療法開発者である小林所長が日本のがん医療界を代表する医師として鼎談した内容が掲載されました。
光免疫医学研究所 小林　久隆　所長	WedgeONLINE （12月27日）	12月22日に都内ホテルで開催された「第1回光免疫療法研究会」が取り上げられ、小林所長のコメントや200人を超す医師や研究者が参加したこと、最新の研究事例が報告されたことが掲載されました。

■ 新聞・雑誌等

看護学部精神看護学領域 三木　明子　教授	日本経済新聞　朝刊 （10月8日）	ペイシェントハラスメントを取り上げた記事で、ハラスメント被害をエスカレートさせない方策を求める三木教授のコメントが掲載されました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	1489MAGAZINE（イシヤクマガジン） （10月10日）	「呼吸器・感染症のスペシャリスト」のタイトルで、新型コロナウイルス感染症発生時の振り返りや新型感染症出現への対応策について語った宮下診療教授のインタビュー記事が掲載されました。
医学部眼科学講座 今井　尚徳　教授	読売新聞　朝刊 （10月10日）	目の愛護デー（10月10日）啓発特集で、今井教授による「黄斑異常」に関する治療方法などの解説が掲載されました。
光免疫医学研究所 小林　久隆　所長	電子デバイス産業新聞10月24日号 （10月24日）	小林所長が開発した光免疫療法の臨床応用や治験における最新情報、12月に開催予定である研究会について掲載されました。
総合医療センター 中森　靖　副病院長	読売新聞　夕刊 （11月5日）	「コロナ長期感染」をあつかった連載企画「医なび」において、総合医療センター中森副病院長が免疫不全のコロナ患者に対して実践している効果的な治療方法や課題が掲載されるとともに、治療方法についてのコメントも掲載されました。
医学部眼科学講座 今井　尚徳　教授	読売新聞　夕刊 （11月6日）	ES細胞を使った網膜シート移植による視機能改善の研究結果を取り上げた記事で、臨床応用への期待や安全性について述べた今井教授のコメントが掲載されました。
医学部腎泌尿器外科学講座 木下　秀文　教授	読売新聞　朝刊 （11月24日）	病院の実力「前立腺がん」大阪編で、木下教授による、治療や手術の選択肢に関する解説が掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木　明子　教授	日本経済新聞　朝刊 （12月7日）	訪問ケアでのハラスメントを取り上げた記事で、三木教授が対応策を学ぶ機会の重要性や長期的な制度の見直し策について指摘したコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

昨年の新年号では元旦の震災を受けて穏やかな年を祈念していました。実際穏やかだったのかと振り返れば、さて、人それぞれの受け止めがあったのではないでしょうか。

この一年、様々に実りある年でありますよう祈念いたします。

（M）

関西医科大学広報　Vol.68

発　行　学校法人　関西医科大学
編　集　広報戦略室
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1　TEL 072-804-0101（代表）
FAX 072-804-2638
https://www.kmu.ac.jp/
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp
令和7年1月24日（金）発行